

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 水のフォーラム

代表者：代表 藤原 悌子

URL : <http://www.w-forum.jp>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県の河川は他県のように脊梁山脈から直接海へ注ぐ河川とは違い、地盤・地殻変動や江戸時代以降の改変で複雑です。そのためいつまでたっても暮らしの場の脇を流れる川に愛着が湧きません。そこで県土の7割に関わる荒川をじっくり紹介したいと思いました。

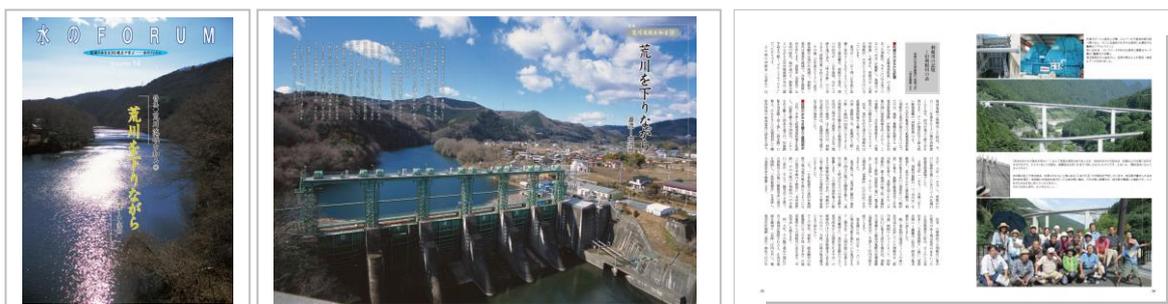
2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

＜実施時期＞ 平成26年度前半～資料収集。 後半に原稿作成等まとめ。

＜参加人数＞ 筆者、校正人員として5名。

＜活動内容＞ 特集記事では、荒川の水源から中流部まで荒川を下りながら自然・歴史・現況を紹介。ガイドブックにあるような内容は省き、少し専門的ですが、流域に暮らす者として知っておきたい内容をまとめました。

実践活動報告では、26年度受賞の「日本水大賞」記念誌掲載文、上下流交流、利根川治水同盟機関紙(編集部東京都)掲載文を報告しました



『水のFORUM』Vol.14 より

3. 活動の成果

河川を紹介しながらの埼玉紹介。関東財務局で埼玉を知りたいと立ち上げた「埼玉プロジェクト」で、これまで『水のFORUM』でまとめた内容を講演しました。職員・部長・局長も聴かれ、今後も付き合いしてほしいと好評でした。

とくに今年度は流域の「水循環基本法」ができ、河川流域を総合的に見た情報があまりないことから、内閣府でアドバイスをしたり、県生きがい大学や河川・用水関係の団体での講演が増えています。また『水利科学』という学術誌からも原稿依頼。埼玉を知っていただく機会と考えています。

4. 今後に残された課題

やっと、河川・農業用水・埼玉県の歴史について、横断的・総合的に自分の言葉で書けるようになりました。できるだけ多くの県民の方々に県土を知っていただきたく、続いて荒川下流部、入間川水系、県北の利根川水系、そして荒川水系にのみ鎮座する氷川社とその本社大宮氷川社と見沼田んぼの関係等をまとめ、『荒川流域を知るⅡ』まで頑張りたいと思います。

少々高齢ゆえ、どこまでできるか、可能な限り続けたいと考えています。